

令和7年度 第2回 北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会
議事次第

日時：令和7年11月25日

18:30～20:00

場所：北川小中学校

多目的ホール

(オンライン併用)

1. 開会
2. 前回内容の確認について
3. 北川村の保小中一体化の在り方について
4. その他進捗報告
 - 村民向けワークショップ
5. 次回の検討委員会について

【配布資料】

- 資料1 第1回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録
資料2 北川村の保小中一体化の在り方
参考資料1 保育・教育施設の現況（図面）
参考資料2 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点
参考資料3 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール

【未定稿】

第1回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和7年10月28日(火)18:30~20:00
開催場所	北川村民会館 大ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委員 岡宗委員、橋本委員長、山崎委員、熊瀬委員、土居委員、百々委員、井津(文)委員、田所委員、稻毛委員、井津(信)委員、有光委員 ■ アドバイザー 長岡アドバイザー、岩城アドバイザー、野島アドバイザー ■ GPMO 神原、山内、湯川 ■ 事務局 濱渦教育次長、堂脇次長補佐、堅田次長補佐、植田主任主事
議題	<ul style="list-style-type: none"> (1)開会 (2)委員紹介 (3)今後の検討に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・北川村の概要と教育・施設の現状について ・令和3年度北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画について ・目次・論点(案)について ・検討スケジュール(案)について (4)次回の検討委員会について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料1 北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会設置要綱 ・資料2 北川村の概要と教育・施設の現状 ・資料3 北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画(ダイジェスト版) ・資料4 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点(案) ・資料5 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール(案) ・参考資料1 保育・教育施設の現況(図面) ・参考資料2 北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画報告書

議事経過	<p>(1)開会</p> <p>【岡宗副村長】</p> <p>人口減少が喫緊の課題。北川村では、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、2060年に目指す村の姿として「千人の家族が子どもを育む ゆず王国北川村」を掲げており、北川村に住みたい、帰ってきたいと思える生活環境を整えるため、仕事の確保と並行して、子育て・教育環境の充実に取り組んできたところ。</p> <p>子育て・教育関係では、令和2年度から「子育て教育ビジョン」に基づき、また、本年3月には、「マスターPLAN」を策定して、保小中の一体的な取組、北川学など、ソフト面での充実を図ってきたが、昨今の環境の変化に合わせて、ソフト面のみならず、ハード面についても魅力化を図ってまいりたいと考えており、本日お集まりいただいた皆様にご議論いただくこととしている。</p> <p>令和3年度の議論を基に、施設の整備状況、村の財政状況等を踏まえ、より具体的かつ実現可能な計画を今年度末目途に策定できればと思う。</p> <p>「北川村から教育をなくさない」のはもとより、当村のような小規模な自治体が魅力・特色ある教育を形にしていくことができれば、今後、全国の同様な自治体における地方創生のモデルにもなると考えている。そのため、様々な立場から自由闊達にご議論いただくことを期待させていただき、村を代表しての挨拶としたい。</p>

【未定稿】

議事経過	<p>(2)委員紹介 【事務局】 【資料1】を基に説明後、 委員11名、アドバイザー3名が名簿順に挨拶</p>
議事経過	<p>(3)今後の検討に向けて 【事務局】 【資料2】を基に説明 【柳川アドバイザー】 【資料3】を基に説明 【GPMO】 【資料4】を基に説明 【事務局】 【資料5】を基に説明 【岡宗委員】 次回から本格的な議論が始まる認識。 委員には早めに資料を送付し、意見を促すようにしてほしい。 【橋本委員長】 この機会を捉えて村の教育や検討委員会への関心を高めてほしい。 以前は教室の形が決まっていたが、環境の変化に応じて色々な形が出てきた。 古い校舎の形ではなく、効果的な学びの空間について議論していただきたい。 【山崎委員】 今日頂いた膨大な情報をどうまとめていくか。 より良い保小中の取組につながるよう、次回以降、具体的に議論していきたい。 【熊瀬委員】 子どもたちにとって安全・安心できる施設整備が最優先。 (保小中の)物理的な問題についても議論を深めていきたい。 【土居委員】 今回の説明資料をじっくりと目を通し、次回以降の議論に備えたい。 【百々委員】 次回以降、色々とお知恵を頂きながら進められるとよい。 【井津(文)委員】 特になし。 【田所委員】 本委員会の検討に当たっては、保小中一体化教育の推進が前提であるか。 他の事例を含め、一体化教育の長所と短所を聞きたい。 子どもが少ない環境だが、一体化教育を進めるメリットはあるか。 →【事務局】これまで進めてきた保小中一体化の取組を充実していく方針。</p>

【未定稿】

	<p>保小中一体化のメリット等については、次回整理して説明したい。</p> <p>【稻毛委員】</p> <p>自身の子どもがいる中学2年生のクラスは4人のみ。 少人数でも、今の環境下で様々な経験の機会を頂いている。 そうした長所を活かし、将来の子どもたちにとって有益なものとなればと思う。</p> <p>【井津(信)委員】</p> <p>保小中を1つにまとめていくのならばそれなりの施設を考えるべき。 安全な施設とすることはもちろん、土石流による危険や、奈半利川の増水リスクなども考えられ、施設の立地についても考える必要があるのではないか。 →【事務局】防災の観点も含めて施設の配置を検討する必要があると認識。</p> <p>【有光委員】</p> <p>安芸市赤野地区では、コミュニティスクールに一早く取り組んでいる。 地域と学校が密接に関わり合いながら、子どもたちを育していくことが大事。 自身も、地域の伝統行事である「赤野獅子舞」を通じて子どもたちと関わっているが、子どもたちがのびのびと成長しているように思う。</p> <p>【長岡アドバイザー】</p> <p>多様な学習形態に対応できる施設も、地域の方々と交流できる施設も、地域の方々が集える施設も、いずれの観点も重要と認識。 何より、子どもたちにとって「明日を生きたい」と思える空間づくり、また、親御さんが「(この学校なら)行かせたい」と思える環境づくりが大事。 「やさしい空間」と、「アカデミックな空間」の両面から議論できるとよい。</p> <p>【岩城アドバイザー】</p> <p>学校づくりを通じて北川村の未来を村全体で描いていくことに期待。 子どもたちが地域で学び、この地域に誇りをもてるようになることが大事。 財政面を考慮しつつ、実現可能なものを考えていくとよいだろう。 保小中一体化の良さを発揮するにはどういったものが必要かを考えていきたい。</p> <p>【野島アドバイザー】</p> <p>防災や安全・安心の視点は学校を考える上で最も重要。子どもたちの安全はもちろん、緊急時には地域の避難所となることを加味する必要がある。 0歳から100歳までのみんなが使えることを想定したコンセプトを意識すべき。子どものために、という議論は言わずもがな、自分(住民)のために使えるという視点も重要。 既存の学校機能を最大限に活かし、多様な利用可能性を探求していきたい。</p>
--	---

議事経過	<p>(4)次回の検討委員会について</p> <p>【事務局】</p> <p>次回については、11月下旬で考えているが、具体的な日時については、追って委員及びアドバイザーの皆様と調整の上、決定・通知することとしたい。</p>
------	--

北川村の保小中一体化の在り方

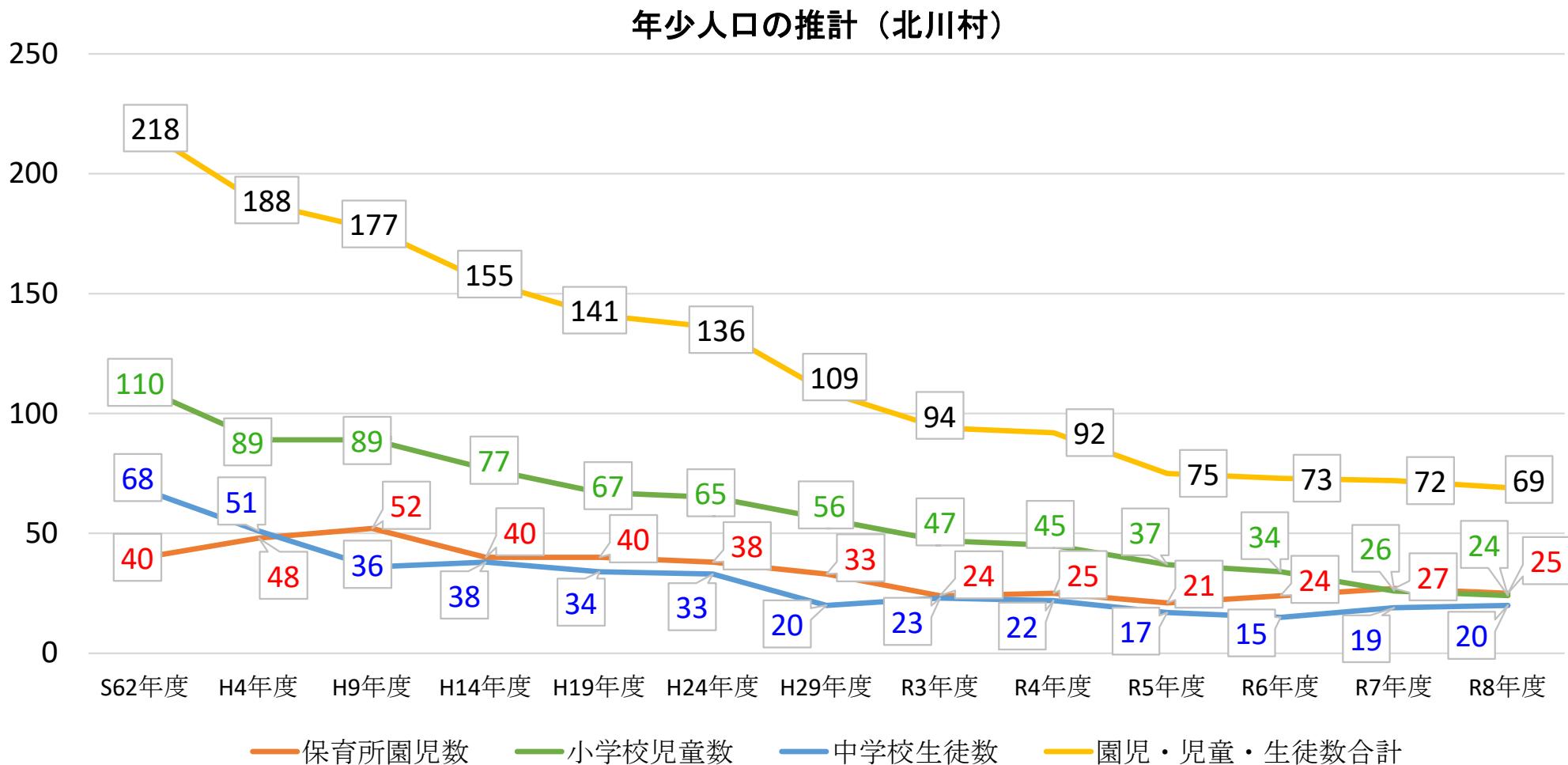
令和7年11月25日

第2回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会

北川村の現状

年少人口の推移

- 令和2年の0歳から14歳までの人数は、国推計116人に対し、102人。
- 令和7年7月現在、園児27人（3歳児8人）、児童26人（小6年8人）、生徒19人（中1年9人）。
- 令和7年度から小学校は完全複式化。今後も、複式学級が続く見込み。



北川村の現状と課題

子どもたちの特性（令和3年度WS）

【良いところ】

- 素直で純朴であり、礼儀正しい。
- 仲間や友達を大切にする思いやりを持っている。
- 北川村に誇りや愛着を持っている。
- 何事にも一生懸命に取り組もうとしている。

【課題】

- 子どもの数が減り、切磋琢磨できる環境が失われていないか。
- 自分の思いや考えを伝えるのが弱いところがあるので、主体性や積極性を伸ばせないか。
- 異学年交流や、地域の方々との関わりを増やすことで、社会性や自信を高められないか。

我が国の教育情勢

求められていること

- ・ 変化の激しい社会においては、答えのない課題に向き合う力が求められている。
- ・ 「知識中心の学び」では変化に対応できない。学校だけでも対応できない。
- ・ 子どもが自ら考え、他者と協働することで、思考を深める学びを実践することが必要。
- ・ 学校のみならず、地域と連携・協働し、実社会と関わりながら取り組むことが重要。

(参考) 現行学習指導要領で目指すこと



(出典) 文部科学省「**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
「社会に開かれた教育課程**」³

本日のテーマ①

本日お話しいただきたいこと

- ご自身が感じられる北川村の子どもたちの良いところはどんなところですか。
- 子どもたちの良いところを伸ばすためには、どんな課題があると思いますか。

上記の点について、各グループで話し合い、それぞれ発表お願ひします。

保小中一体化の取組

保小中一体化の内容

保小連携

- 接続期カリキュラム（架け橋期プログラム）で保育と学校教育をつなぐ取組を実施。

例えば、

- 年長児小学校体験入学
- 年長児と児童の交流活動（小学校水泳大会、保育所運動会、味噌づくりなど）
- 保育所と小学校との連絡会

小中一貫教育

- 小学校教育と中学校教育を一貫して行う取組を実施。

例えば、

- 中学校教員の小学校への乗り入れ授業
- 小学生と中学生による合同行事（始業式、運動会、音楽発表会など）
- 小学校教職員と中学校教職員による合同研修会
- 小中9年間を見通した探究的な学び「北川学」の実践
- 小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメントの充実

今後の教育の在り方

保小中一体化の更なる深化に向けて

- ますます「予測困難な時代」となっていく中で、主体性・積極性・自己肯定感などの課題への対応が求められる。
- 今後、園児・児童・生徒の数が更に減り、複式学級＝異年齢教育が余儀なくされる。



こうした状況を逆手にとって、

保小中間の学びの連続性・系統性や、探究的な学びの充実、地域との連携・協働を積極的に取り入れ、

子どもたちの豊かな学びの実現、学びに向かう力や人間性の育成、切磋琢磨できる環境づくりを目指すことがよいのではないか。

魅力・特色ある環境づくりの目標

環境づくりのポイント（令和3年度）

（参考）令和3年度北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画報告書から

I. 0歳～15歳の一体的な教育環境づくり

0歳～15歳の子どもが通い、みんなで育っていくために、保育所、小学校、中学校、体育館など、小さな村の中にバラバラに建っている建物を、一体的にまとめて整備します。

保育所と義務教育学校を併設することで、これまでの取組を深め、子どもたちが、それぞれの様子を見て、関わり、学び合い、大きな家族のように育つ環境を目指します。

II. 北川だからできる「子育ち」環境づくり

学校の中のラーニング・コモンズやセミナー室、工作室、家庭科室など、村民も共用して、子どもがともに活動を行える建物と運営を支える体制づくりを目指します。

III. 誰でも気軽に立ち寄れる、魅力発信・村民活動・子育ての拠点環境づくり

村の名産、名所、人、活動など、様々な「村の宝物」を、子どもと一緒にになって発信したり、気軽に立ち寄って、村のために語り合ったり、村民が集まれる拠点を目指します。

魅力・特色ある環境づくりの方向性

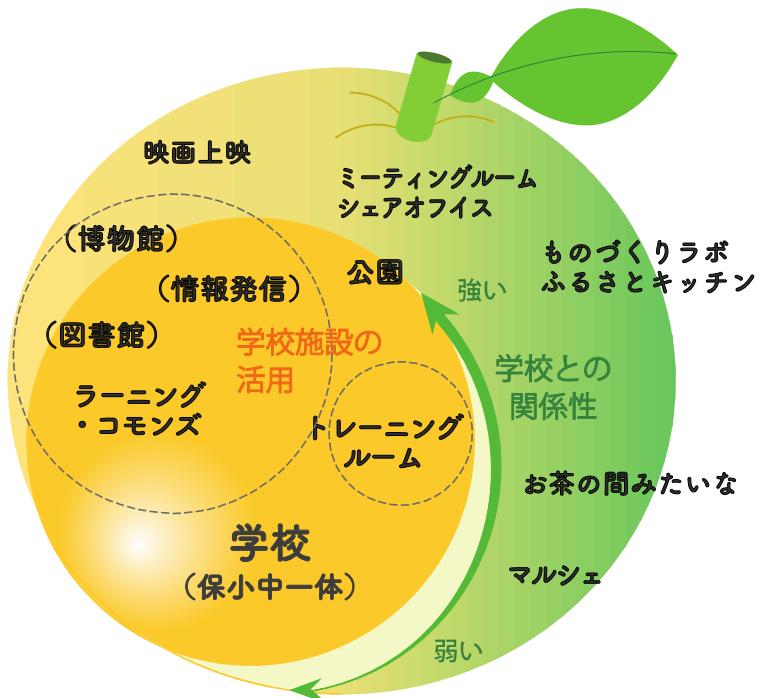
デザインコンセプト（令和3年度WS）

0歳～100歳 みんなが集い、学び、みんなでつくる『学びのひろば・ゆずのたね』

【込められた願い】

- ・気軽にふらっと出かけられ、ゆったり時間を過ごせる場所
- ・村の人と出会えたり、子どもと触れ合えたりできる場所
- ・学校と地域がつながれる場所

あらゆる人とつながる学びの場



【施設整備の意義】

- ・少子化・小規模化が課題である北川村の教育環境においては、子ども同士はもちろん、村民や村外の人たちとの交流や学びの場をつくることで、継続的・発展的な学びにつながる。
- ・みんなが参画し、共創することは、北川村の未来に向けた新しい活力の芽吹きを創り出し、村を支えていくことにつながる。

本日のテーマ②

本日お話しいただきたいこと

- どんな子育て・教育環境があれば子どもたちを通わせたいですか。
- 「みんなが集い、学ぶ」ためには、どんな場所があるとよいですか。
- これらの環境を「みんなでつくる」ためには、どんな取組ができるとよいですか。

上記の点について、各グループで話し合い、それぞれ発表お願ひします。

関連資料

北川村の現状と課題

園児・児童・生徒数（令和7年度）

保育所 11/4 時点		たんぽぽ			あか	き	みどり	計
		0歳	1歳	2歳				
男	3	3	2		5	2	3	18
女	1	1	2		3	3	2	12
計	4	4	4		8	5	5	30

小学校 7/1 時点		1年		2年		3年		4年		5年		6年		計
		通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	
男	1			1		2		3		2		3		12
女	3			2		1		2	1	1	1	5		15
計	4			3		3		6		3		8		27

中学校 7/1 時点		1年		2年		3年		計
		通	特	通	特	通	特	
男	3			2		2	2	9
女	6			1	1	2		10
計	9			4		6		19

北川村の教育の方向性

求められる教育の在り方

- 人口減少や、グローバル化、IT化などが進む中で、未来の日本や北川村を担っていくためには、
 - 子どもの育ちの連続性を保障する一体的な教育を推進すること
 - 学校・家庭・地域が連携・協働しながら次代を担う子どもたちの生きる力を育むことが必要。

(参考) 北川村子育て教育ビジョン（抜粋）

保小中の一貫的な取組 15年間の一貫した子育て・教育で誰ひとり取り残されず学ぶことができる魅力的な環境を創る

子育て・教育の魅力ある環境整備 将来を見据えた北川村子育て教育ビジョンの実現を目指し、子ども達が減少していく中にあっても、充実した保育・学校教育の運営（ソフト面）を構築するための実施計画（マスタープラン）で構想した取り組みを、一つ一つ実施し、改善しながらよりよい計画を作り上げていきます。

マスターPLAN

学園理念
～グローバル化される社会を生き抜くための人材を育成する～

教育方針
自立・協働・貢献・創造

育てたい人間像
・北川村を知り、村の良さを語ることができる
・自立に向けて、主体的に社会形成に向けた行動ができる
・課題解決に向けて、探究的に考える
・人と関わり、多様性を認める
・よりよい社会の創造に向けて、自ら社会に参画する。

魅力と特色ある教育活動

I **北川学**
故郷への愛着と地域への貢献意欲を探究的な学びを通して育む
・食育　・生活・総合的な学習の時間
・企業との連携

II **社会の時間**
社会に参画し貢献する態度を育むとともに、日常生活を豊かにする行動や生活の知恵、非認知能力を身につける
・授業　・キャリア教育
・人権教育

III **こころの時間**
子どもの思考力・判断力・表現を育む
・授業の充実
・外部機関等との連携
・放課後学習の充実

IV **異文化理解の時間**
コミュニケーション力の向上を目指すとともに、フランス・イギリス体験学習を見据えた活動を通してグローバルな視野を育む
・英語学習　・異文化に触れる
・海外体験学習、英語キャンプ

15歳の姿

ふるさとへの愛着と誇りを持ち、学ぶ意欲にあふれ、未来を切り拓く、社会性豊かな子ども

ICT活用事例等

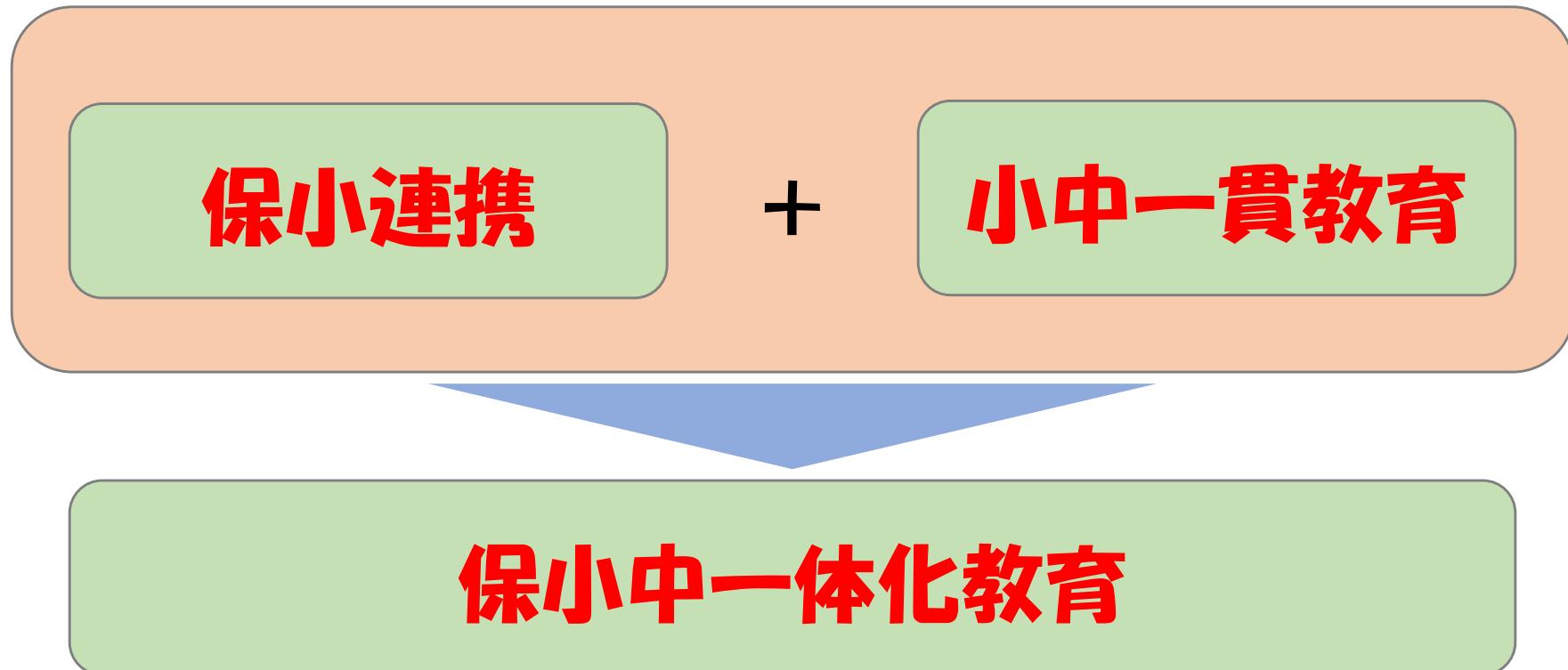
- デジタル教科書や映像資料を電子黒板に提示
- 電子黒板に提示された他の意見を参考に、自らの考えをブラッシュアップ
- クラウドやデジタルドリル等を活用し、授業と家庭学習とのシームレス化を図る
- プレゼン資料やPR動画等の作成
- タブレットドリルやオンライン英会話などの個別最適化された学びの展開
- 教材準備等の教職員の負担軽減

卒業後のさらなる成長へ繋げる

保小中一体化とは

保小中一体化の考え方

- ・ 子どもの学び・育ちは連続している。
- ・ 保・小・中それぞれの枠組みを越えて連続的・系統的な学びを提供していくことが必要。
- ・ そのためには、「保小連携」と「小中一貫教育」を組み合わせた「保小中一体化」の取組が重要。



保小中一体化とは

保小連携について

- ・ 幼児期の「遊び」は重要な学習であり、その後の教育の基礎となる。
- ・ 発達段階に応じた教育の違いによって小学校進学時に戸惑う児童や、適応が難しい児童が見られる。

■保育所保育指針（平成29年3月）（抜粋）

（2）小学校との連携

ア 保育所においては、保育所保育は、**小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮**し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うこと。

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、

（略）「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有するなど連携を図り、**保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図る**よう努めること。

■小学校学習指導要領（平成29年3月）（抜粋）

4 学校段階等間の接続

（1）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく**幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて**教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

（略）特に、小学校入学当初においては、**幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続される**よう、（略）指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

保小中一体化とは

小中一貫教育について

- 教育内容や学習活動の量的・質的充実に対応して、小学校・中学校の教職員が共に義務教育9年間の全体像を把握・共有し、連続性・系統性に配慮した教育活動に取り組む必要性が生じている。
- 発達の段階に応じた指導体制や指導方法の違いによって、学習面でのつまずきや生活面での課題が見られる。

■小学校学習指導要領（平成29年3月）（抜粋）

4 学校段階等間の接続

（2）中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。（略）

■中学校学習指導要領（平成29年3月）（抜粋）

4 学校段階間の接続

（1）小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。（略）

北川村での取組

保小中一体化の経緯と内容

- 平成28年度から2年間「高知県保幼小連携推進事業」を実施。
→接続期カリキュラム（架け橋期プログラム）で保育と学校教育をつなぐ取組を開始。

例えば、

- 年長児小学校体験入学
- 年長児と児童の交流活動（小学校水泳大会、保育所運動会、味噌づくりなど）
- 保育所と小学校との連絡会

- 令和2年度からは「小中一貫型小学校・中学校」制度を導入。
→校長1名体制とすることで、小学校教育と中学校教育を一貫して行う取組を実施。

例えば、

- 中学校教員の小学校への乗り入れ授業
- 小学生と中学生による合同行事（始業式、運動会、音楽発表会など）
- 小学校教職員と中学校教職員による合同研修会
- 小中9年間を見通した探究的な学び「北川学」の実践
- 小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメントの充実

- このほか、保小中一体化の観点から、
 - ・ 北川村教育連絡協議会を設置・充実。
 - ・ 北川村保小中学校運営協議会を設置・運営。

北川村での取組

北川学とは

(目的)

- 小中9年間を通して、
■子どもの主体的・探究的な学びの姿勢を向上させる
■郷土への愛着や誇りを育む



これらの力を育てるために、令和元年度から、
北川村ならではの魅力・特色ある教育として実践。



具体的には、**小中9年間**を見通し、生活科・総合的な学習の時間を中心に、**北川村の地域資源を活用して、自ら学び、自ら考え、主体的・探究的に行動するための学習**を実践。

令和6年度 北川学の主な取組

村で楽しもう(小1. 2)

小1 学校たんけん



小2 村たんけん



村を知ろう(小3. 4)

小3 北川村を助けたいはっしんしたいする人達を探そう

小4 北川村のゆずのひみつを見つけよう



村と関わろう(小5. 6)

小5 知ろう！伝えよう！北川村の観光地「モネの庭」の魅力や宝～クロード・モネやモネの庭に関わる人々の想いを発信しよう～

小6 北川村の魅力を発信しよう ～北川村へ高知県へ日本へ世界へ～

村に貢献しよう(中1. 2. 3)

中1 ゆずの魅力を活かして北川村をもっと活性化しよう



中3 明るい未来のために～北川村を輝かせ、自分たちで守り抜こう～



中2 北川村の中世城郭(山城)を活用した持続可能な地域づくり

北川村での取組

保小中一体化を通じて期待していること

- 0歳から15歳までの子どもたちを「みんなで育てよう」という発想・意識を共有する。
- 個々の特性に寄り添った保育・教育の重要性を理解し、支援の共通化を図る。
- 小中一貫教育の実践により、学習のつまずきに迅速に対応できる。（例えば、学力調査等の結果の分析を小中一緒にすることで、効果的な学力向上につなげられる。）
- 授業や行事の異世代交流が実施しやすくなることで、上級生は下級生の手本となろうとする意識が高まり、自尊感情も高まる。逆に、下級生は上級生への憧れの気持ちを強く持つようになり、学ぶ意欲や将来への見通しも育むことができる。



同じ価値観・同じ視点から子どもたちを指導・育成

我が国の今後の教育の在り方

次期学習指導要領に向けた主な考え方

① 深い学びの実装 (Excellence)

主に第2,3,4,6章
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

② 多様性の包摂 (Equity)

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

③ 実現可能性の確保 (Feasibility)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

(出典) 文部科学省「教育課程企画特別部会における論点整理について」

小中一貫教育の概要

小中一貫教育

法律で定められた学校制度

義務教育学校

小中一貫校

小中一貫教育の概要

小中連携教育

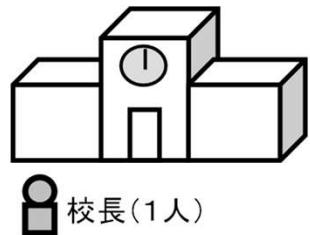
小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育

①義務教育学校

- ・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

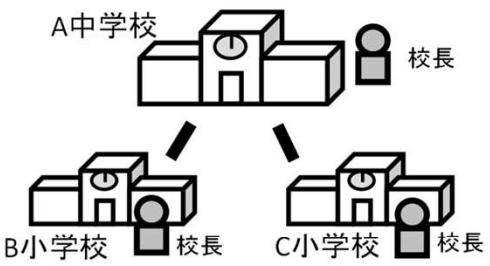
修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



小中一貫型小学校・中学校

- ・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

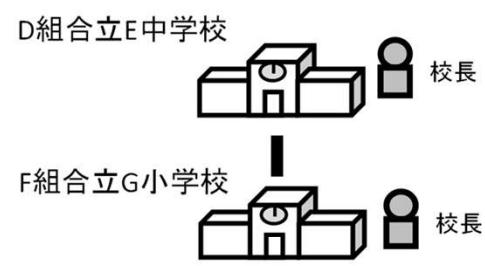
②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

- 例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

(出典) 文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」

義務教育学校制度

義務教育学校になってできること

- 小中9年間を見通した教育課程を実践しやすくなる。
- 小（中）学校の授業に中（小）学校教員が関わりやすくなる。子どもにとっても、安心して通い続けることができるほか、小中の教職員同士の日々の情報共有が促進され、より効果的・連続的な指導がしやすくなる。
- カリキュラムや校時・勤務時間の統一を図りやすく、合同授業や合同行事、合同研修会などがより一層行いやすくなる。
- (施設を一体化するケースが多く、もしそうすれば) 教職員同士の意思疎通、子ども同士の交流が更にしやすくなる。

義務教育学校制度

導入による効果（国調査結果）

（学習面）

- 学習意欲が向上した（80%）
- 勉強が好きと答える児童生徒が増えた（71%）
- 全国学力・学習状況調査の結果が向上した（61%）

（生徒指導面）

- 中学校への進学に不安を覚える児童が減少した（96%）
- 上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった（94%）
- 児童生徒のコミュニケーション能力が高まった（76%）

（教職員の協働）

- 小・中学校共通で実践する取組が増えた（98%）
- 小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった（97%）
- 教員の教科指導力の向上につながった（87%）

（出典）文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査（平成29年3月1日時点）」

※パーセントは、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合

義務教育学校制度

高知県内の導入学校数（令和7年度）

	学校数	学校名
小中一貫校	11校	<ul style="list-style-type: none">・須崎市立 上分小中(H16)・須崎市立 南小中(H17)・馬路村立 魚梁瀬小中(H20)・土佐町立 土佐町小中(H21)・馬路村立 馬路小中(H23)・梼原町立 椧原小中(H23)・いの町立 神谷小中(H24)・佐川町立 尾川小中(H24)・北川村立 北川小中(R2)・中土佐町立 大野見小中(R4)・黒潮町立 佐賀小中(R6)
義務教育学校	4校	<ul style="list-style-type: none">・高知市立 土佐山学舎(H28)・高知市立 行川学園(H28)・大豊町立 大豊学園(R4)・大川村立 大川小中学校(R4)

義務教育学校制度

導入に当たって検討すべきこと

- メリハリがつきにくい。
- 新たに学校を設置する必要があるため、条例改正手続が必要。
(北川村立小、中学校の廃止及び義務教育学校の新設のための改正が必要。)
- 教育課程の見直しや、校時の統一化など、検討の余地がある。
- 改めて、校名や、校章、校歌をどうするかについて議論する必要。
- 施設をどうするか。